

生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

- (1) アメニティプランナー
(生理人類士1級)
- (2) アメニティコーディネーター
(生理人類士準1級)
- (3) アメニティスペシャリスト
(生理人類士2級)

(1) および (2) は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また (3) は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。



目次

資格認定委員会委員長挨拶 P.1

指定校責任者挨拶 P.2

生理人類士の声 P.3

生理人類士 2009 年度資格認定者 P.4

資格認定委員会委員長挨拶

橋本修左(武蔵野大学)

生理人類士資格制度は2000年に始まり、今年で満10年を迎えます。その間、様々な試行錯誤がありましたが、資格認定指定校も全国で着実に増加してゆき、ようやく今みるような制度として定着してきました。そして、その結果、2009年度で総計すると、アメニティプランナー（生理人類士1級）27名、アメニティコーディネーター（生理人類士準1級）95名、アメニティスペシャリスト（生理人類士2級）851名が誕生しました。実に約1000名にのぼる生理人類士を今までに輩出したことになります。良く知られている弁証法における基本法則の中に、「量」から「質」への転換というものがあります。これは「量」の増大が必ずや「質」を向上させずにはおかないということです。今日多くの生理人類士が誕生していることは、これらの方々が益々様々な分野で活躍されることによって、日本生理人類学会の活動とあいまって、生理人類学が世にしっかりと認知されるにとどまらず、生理人類学会の理念を実現するための大きなうねりが創出されることも夢ではないと思われます。

この資格制度の創設から始まり、歴代の資格認定委員長や委員をはじめとする多くの生理人類学会員の方々の多大なご努力がありましたが、制度創設10年をひとつの節目として、「質」の向上をはじめとして今後の一層の維持・発展のために尽力したいと思います。

「生理人類士」資格認定者数

	1級 アメニティプランナー	準1級 アメニティコーディネーター	2級 アメニティスペシャリスト	総計
2000	6	5	24	35
2001	3	5	86	94
2002	3	16	134	153
2003	0	5	95	100
2004	2	12	113	127
2005	0	14	110	124
2006	0	12	91	103
2007	4	12	57	73
2008	3	9	78	90
2009	6	5	63	74
計	27	95	851	973

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には特典が与えられます。（指定校の認定を受けるには、カリキュラムにおいて、受験資格要件を満たす科目が開講されている必要があります。）

認定を申請される場合、下記①～③を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書きし、事務局へ郵送して下さい。当委員会では速やかに審査を行い、結果についてお知らせします。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。手続その他において不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書（様式 B-1※）

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です（認定制度規程※参照）。

②資格要件に関わる開講科目一覧表（様式 B-2※）

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。不明な場合、事務局に照会して下さい。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類（様式 B-2※）を作成して下さい。

③返信用切手（120円）

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。



指定校責任者挨拶

東北文化学園大学
科学技術学部・人間環境デザイン学科

田原靖彦

当学科は、1999年度の東北文化学園大学の開学と同時に、環境工学・建築設備学に特徴をもつ建築系の「環境計画工学科」として発足しました。その後、2回の学科名及びカリキュラムの改訂を経て、“住環境デザイン”と“健康環境コーディネート”の2つのコースからなる「人間環境デザイン学科」として現在に至っています。

“住環境デザインコース”は、従来の建築系の流れをくむ領域で、「建築デザイン」と「まちづくり」の2分野で構成されます。一方の“健康環境コーディネートコース”は、生理人類学会との関連性が深い新しい領域で、「健康住宅」と

「福祉住環境」の2分野で構成されます。

当学科の基礎科目の中には、「医学総論」、「人体の構造と機能」、「公衆衛生学」、「健康科学概論」、「基礎生物学」等の医学系科目があり、また専門科目として「健康住宅インテリア論」、「福祉住環境設計」、「癒し環境計画論」、「アメニティデザイン論」等のアメニティ関連科目を幾つか配置していることから、アメニティ資格認定校の申請は比較的無理なく行うことが出来たという経緯があります。

当学科では、従来より、福祉住環境コーディネータ、シックハウス診断士、CAD検定、宅建な

ど、在学中からの資格取得を推進するための“資格取得プログラム”を運用しておりますが、平成22年度には「人間環境デザイン学科」として入学してきた学生が3年次生となりますので、これを期に、“アメニティスペシャリスト資格取得講座”の立ち上げを予定しております。学会の資格認定学科としてはまだまだ半人前ですが、少しでも早く資格取得者を出すべく、学生と一緒に勉強していきたいと考えております。

2009 年度表彰者氏名

<準1級>

余 寒蓄(武蔵野大学大学院)

<2級>

仲條 優(武蔵野大学)・後藤 知子(武蔵野大学)・稲葉 梨乃(金城学院大学)

内田 彩佳(福岡女学院大学)・土屋 森里(長野県短期大学)・木村 恭子(実践女子大学)

生理人類士準1級

余寒蒼さん

(武蔵野大学大学院)

中国における生理人類学

私は中国から来日し、2年生から武蔵野大学に編入してきました。編入した人間関係学科で初めて生理人類学という学問に出会いました。中国で学んできた中で、生理人類学というような勉強に触れる機会はありませんでした。生理人類学は人類の歴史や文化などに及ぶ広範囲なものであり、環境との調和を考え、人が快適に豊かに暮らすことを目指す学問だということが分かりました。そして、現在、中国は経済や技術の発展が目覚ましいとされている国で、生活の面でもどんどん便利になってきています。しかし、そのような状況であるからこそ、生理人類学的な、本当に人間に優しい環境とはどんな環境なのかを、人間の体の働きや心の働きから考慮する必要があります。

私は生理人類士準1級を取得しましたが、資格を得たことをきっかけにして、今後は、生理人類学の知識をより深めていきたいと思っています。また、中国でまだまだ進んでいない生理人類学が多くの中国の学生に広まっていくことができれば嬉しいです。

生理人類士2級

内山裕子さん

(実践女子大学)

3年前期に受講した生理人類学がきっかけとなり、生理人類士に興味を持ちました。生理人類学では私たち人類に関係するあらゆる分野について学び、人類そのものについて理解を深めることで、変化していく環境に対応できると感じまし

た。

私は住環境の分野に関心を持ち、その方面の講義を選択しています。住環境など、人類を取り巻いている環境は近年ますます高度になり、日々変化しているように思います。住環境を突き詰めていくうえで、人類そのものについて理解を深めることが大変重要であると考え、生理人類士2級の取得を目指しました。

生理人類士2級取得のために学校で開かれた勉強会に参加し、改めて生理人類学の分野に触れ、生理人類学の面白さや人間の奥深さを実感することができました。資格試験のためにテキストを読み返し勉強していくことで、今まではただすり抜けていっていた知識が自分の中に蓄積されていくように思いました。

また、周りを見渡すことで日常生活の中にも人類の特性が活かされていることがわかりました。これから行われる卒業論文制作でも、資格取得の際に学んだことを忘れずに取り組んでいきたいと考えています。

稲葉梨乃さん

(金城学院大学)

大学に入学し、アメニティ資格というパンフレットをもらい、そこで初めてこの資格があることを知りました。大学で講義を受けていくなかで、人が快適に暮らせる環境というのはどういうことなのか興味を持ちました。私は住宅・都市環境コースを専攻し、快適な空間を設計するためにも、知識を身につけようと思い、生理人類士2級(アメニティスペシャリスト)を受験することを決めました。いざテキストを開いてみると難しそうな用語ばか

りで理解できるのか不安でしたが、生理人類学は人間の身体機能を学ぶことで、体の働き・心の働きを考えながら、人間にやさしい環境とは何かを考えていくことだとわかり、興味を持って勉強を進めることができました。また勉強していくなかで、生理人類学はオフィスや商業施設の建築分野だけではなく、人が使いやすい商品開発など様々な分野で人が快適に暮らすために役立っていると知ることができました。

これからは人が快適に暮らせる環境になるように、私自身この資格を役立てていきたいと思っています。そして生理人類学について多くの人が学び、人がより快適で暮らしやすい世の中になっていけばいいと思っています。

仲條優さん

(武蔵野大学)

生理人類士2級の資格を取得して

私が武蔵野大学通信教育部で心理学を学んできた中で、自分が思う以上に私達は周囲にあるモノの形状や素材といった属性や、空間や他者の存在などから、多くの影響を受けている事を知りました。また私は、これらの刺激に対する自分自身の心や身体の反応、そのしくみなどに関する知識が、あまりにも無かった事に気づかされ、多くの驚きを持って学んできました。しかし、ヒトと環境の係わり合いに関する分野は、生理、環境、文化など多岐に渡り、多元的な視点を必要とするため、大変難しくもありました。

今回、生理人類士(2級)という資格試験の存在を知り、受験を決め、再度

勉強する機会を得て、ヒトという存在の偶然性や意外性、神秘性や複雑性などを再確認し、さらに興味を抱きました。

生理人類士が扱うヒトと環境の係わり合いの問題はとても身近な題材であること。ヒトの生理的な反応を理解し解析することで、快適な環境づくりへのアイデアを導き出すという大変クリエイティブであることが、生理人類士の魅力であると考えます。やっと生理人類士の視点を持たばかりの私は、まだまだ学んだ事象を実生活で発見し、面白がっている状態ですが、快適生活環境や安全に対する社会還元可能なアイデアを提案できるよう、さらに学んでいきたいと思っています。

後藤知子さん

(武蔵野大学)

働く人のアメニティ環境

私はこれまで民間企業で働いてきました。急激な変化と情報化社会に流されながらも、仕事の根幹は人との関わりの上で成立っていることから、働く人の心理に興味を抱き通信教育部で産業心理学を学び始めました。そこで環境心理学や生理人類学という分野があることを知りました。

なかでも生理人類学では、環境刺激に対して様々な生理機能が互いに影響を及ぼしあいながら作用し体内恒常性を維持しているという「全身的協働」が「環境適応能」と密接な関わりがあることを学びました。人の心の中だけに着目するというよりも、そのシステム全体をとらえ、わたしたちを取り囲む環境側面につ

⇒次ページへ



投稿記事募集

生理人類士を取得された皆さまへのお願い

生理人類士を取得し、その後どのような仕事をしていますか？生理人類士として、社会で活躍されている方の経験談や、生理人類士の資格をどのように活かしているかについてなど、「アメニティの機関紙」への投稿を随時募集しております。

事務局宛まで投稿原稿をE-mailで送っていただくか、テキスト形式で入力されたものをご郵送下さい。

今後、このアメニティの機関紙を生理人類士同士の情報交換の場としてご活用いただければ幸いです。

く人に影響を及ぼす、こころとからだについて総合的に理解を深めることができました。

今後は、ここで学んだ有益な知識を活かし、できるところからひとつずつ人間と環境のアメニティをつくりあげていきたいと思います。とくに産業場面において、安全・安心そして快適に過ごせる職場環境を追求していきたいと思っています。

内田穂奈美 (長野県短期大学) 安全で快適な生活を求めて

私は、生理人類士2級
(アメニティスペシャリス

ト)という資格があることを長野県短期大学に入るまで知りませんでした。アメニティの資格は、生活環境をどのように安全かつ快適にしていくかを追求していくための第一歩ということを経験して、自分が大学で学びたかったこと、学んでいることと一緒だったので、もっと自分のものにしたいと受験することを決めました。

試験勉強では、テキストを開いてみると分からない用語や、図がたくさんあって最初はとても不安でした。しかし、先生が講義を開いてくださり、現代生活の中で話題になっているも

のを例としてあげて分かりやすく説明してくれました。その中で、普段の授業だけでは気づかなかったことに気が付き、新しい視点から学ぶことができました。

私は、春から電力業界に就職することが決まっています。電力業界でも、暮らしの中に溶け込んでいる電気をお客様にどのように安全かつ快適に提供できるかが求められています。今回学んだアメニティの知識を活かして、自分もお客様にも満足していただけるような環境づくりを追求していきたいです。

生理人類士 2009 年度資格認定者

<1 級 合格者>

田原 靖彦

<1 級 特別認定者>

青柳 潔、草野 洋介、下村 義弘、栃原 裕、山崎 和彦

<準 1 級 合格者>

神林 恵美加、余 寒蕾、友納 昭恵、大川 尚子、岩崎 史明

<2 級 合格者>

森元 祐汐、佐々木 舞、島田 紗樹、下田 香絵、勝山 結喜、高橋 春香、藤 由布紀、加嶋 誠、大塚 沙織、森 太志、加藤 諒子、宇和川 知里、小澤 彰、原田 拓実、泉田 絵理、齋藤 瑞貴、山崎 礼子、仲條 優、後藤 知子、吉井 菜穂子、柏倉 孝、丸山 康子、藤田 あゆ美、羽鳥 摩希子、方志 博文、勝田 芳栄、大崎 裕子、檜村 圭亮、須永 千尋、和田 幸子、秋山 千尋、内山 裕子、大西 優花、佐野 由布、重原 舞、須藤 沙織、太野垣 博子、南 沙季、老後 麻美、高木 真里奈、辺見 浩子、中山 直子、松嶋 茜、井手口 容子、桑野 真理子、長江 真奈、吉田 真彩、堀江 悠希子、久富 友璃子、吉田 あすみ、内田 彩佳、竹添 智保子、武津 有希、稲葉 梨乃、早川 佳那、赤尾 美砂、阿部 永、内田 穂奈美、島田 かおり、竹内 奈緒美、竹政 菜々、土屋 森里、湯本 順子

生理人類士認定委員会事務局および問合せ先

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株) 国際文献印刷社内

TEL : 03-5389-6218

FAX : 03-3368-2822

e-mail : jspa-post@bunken.co.jp